

お客さま探訪

12

現場の発想をすぐさま形に Unit Designと製品力が改善の原動力

SUSお客さま探訪シリーズ — アットホーム株式会社さま

アットホーム株式会社

〒144-0056 東京都大田区西六郷4-30-15
tel.03-3730-7702 (ITP事業部製作管理室)
fax.03-3730-7703
http://www.athome.co.jp/



賃貸住宅・一戸建て・マンション、土地などの不動産情報の提供でおなじみのアットホームさま。今回は、全国の加盟不動産会社に提供するファクトシートを印刷する現場を訪問し、アルミパイプ構造材GFを使った作業台や台車をご紹介します。

自社内での印刷は、創業当時から

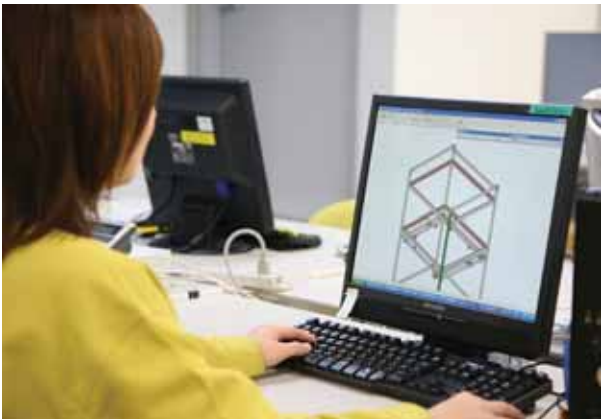
不動産情報ネットワークで有名なアットホームさまがなぜGFを使うのだろう。今回、お伺いすることになって、まず浮かんだのがこの疑問でした。

「ファクトシート・リスティングサービスのための印刷をしています、その作業台や台車に利用させていただいています。不動



お話しを伺ったITP事業部の福田誠さま、鳴島寿雄さま、池田恵理さま、見玉海幸さま、上原良博さま(左から)。

産屋さんへ行ったことのある方はお分かりになると思いますが、店頭には物件を紹介する紙が貼ってありますし、中に入れば、それらがファイリングされ閲覧できるようになっています。この紙がファクトシートであり、これを製作し、加盟不動産会社さまにお配りするのがこのファクトシート・リスティングサービスです」(ITP事業部製作管理室生産管理グループグループ長、福田誠さま)。ファクトシートはもちろん見たことがありますが、



それを自社で印刷しているとは思ひもありませんでした。

不動産情報はデリケートな側面が多く、公開するタイミングにも神経を使います。また、情報は早く正確にとの主旨から、同社では創業時より自社で印刷を行っているとのことでした。

インターンの学生さんから知ったSUSの存在

アットホームさまにはインターンシップの制度があり、毎年数名の学生を採用しています。その学生が課題で製作した印刷物の自動搬送装置に使われていたのがSUSのフレームやスイッチボックス。これを見て、SUSの存在を知ったそうです。

「1日1000件程度、枚数にすると250万から300万枚を印刷しています。生産管理部門ではこれに関係する多くの原稿、版下を管理する必要があります。また、それら材料を工程に沿ってきちんと仕分けしておかないと間違いが生じますので、管理する棚はとても重要です。かつては既製品で対処していましたが、大きさにも仕様にも選択肢が少なく、無駄なスペース、無駄な作業が生じていました。このような悩みを抱えていたときに目にしたのが、学生さんの製作した搬送台車に使われていたSUSのフレームだったのです。聞くと、種類も豊富で希望する長さに対応してくれるとのこと。早速注文し、棚をつくりました」(福田さま)。

こうした経緯で生産管理に導入された棚が、印刷工場、さらには技術開発部門にも伝わり、さまざまな部署で使用いただくようになったのです。

3次元組立図制作ソフト Unit Designを使いこなす

「Unit Designの存在もインターンの学生さんから教えてもらいました」とは、ITP事業部開発室技術開発グループ生産技術チーム、池田恵理さま。

Unit Designとは、SUSが独自で開発した3次元組立図制作ソフトで、GFおよびアルミ構造材SFを使った立体的な作図をお客さま自身ができるソフトです(HPからダウンロード、無料)。お客さまのアイデアが、その場で簡単に立体表現できる点、また、これをメールで送るだけで部材が届く手軽さが好評です。

「CAD関係のソフトを扱うことはありますが、3D制作ソフトは初めてでした。慣れる



●印刷受領作業のためのパソコン用棚

「印刷開始、終了を登録し、進捗を確認するためのパソコンを置いた棚です。多品種小ロットの印刷に対応するため、オペレーター11名が各自2台、計22台の印刷機を操作するという複雑な体制を採っており(印刷機は全部で24台設置)、パソコンでの管理が重要になります」(ITP事業部製作室製造グループ第一印刷チームチーム長、鳴島寿雄さま)。



●表示レール

用紙の種類を明示するプレートを吊るレールにはSFが使われている。使用する用紙は約20種類。用紙の取り間違いなど起こさないよう、「見える化」には力を入れているとのこと。

のに1週間程度かかりましたが、毎日操作しているうちに慣れ、それ以降は特にストレスを感じてはいません」(同、池田さま)。

棚も印刷機もみな既製品が使えないという背景もあって、機器導入の際は、必ず現場の意見や希望を取り入れながら開発するそうです。改善活動でもあり、企業選定の基準も、ただ安いだけではなく、一緒になって開発していけるかどうかが鍵になるとのことでした。

「製品の善し悪しのみならず、担当者に情熱があるか、会社として一緒に考えてくれる体制がとれているか、といったことが重要なポイントになります」(福田さま)。SUSはこのような期待にこれからも全力で応えていきたいと考えています。



●製版工程用棚

「オペレーターの負担にならないような高さになっています。下には消耗品が置けるようにしました。耐荷重は60kgです。両サイドおよび後ろ側にはアクリルパネルを入れています。棚からものが落ちないようにしたい、かつ可視性も保ちたいという要求に簡単に対応できる点がよいと思います」(同、鳴島さま)。



●現在使用している台車

「SUSさんには3連のアルミ台車の提案をお願いしています。作業工程の関係でABC3種の印刷物があり、それぞれ枚数が異なるのです。山の高さをそろえるため、重さによって高さを一定に保つことのできる機構をもった3連の台車ができれば作業性がよくなると考えています」(同、鳴島さま)。



●自動搬送台車

「SUSを知るきっかけになった自動搬送台車です。耐荷重は150kg。印刷物は60kg程度ですのでまったく問題ありません。現在はまだテスト段階です」(池田さま)。



●仕分け作業用棚

仕分けされた印刷物の束にバーコードをつける作業を行う棚。棚の上には糊づけ用の機械と伝票を打ち出すプリンタが置かれている。